

チベット・ビルマ語派（以下、TB 語派）の一部の言語には、動詞に付加され移動や動作の方向を示す要素「方向接辞」が見られる。また、複数の言語において、方向接辞がムードやアスペクトと関連して用いられるという現象が見られる。興味深いことに、約千年前に話されていた西夏語と、現代の少数民族語に、共通する音・機能を持つ方向接辞も存在する。ただし、形式・機能・特徴を比較・考察すると一様ではない。方向接辞は TB 語派の研究者間で知られてはいるものの、いくつかの言語を比較して再検討する必要がある。

0. 方向接辞

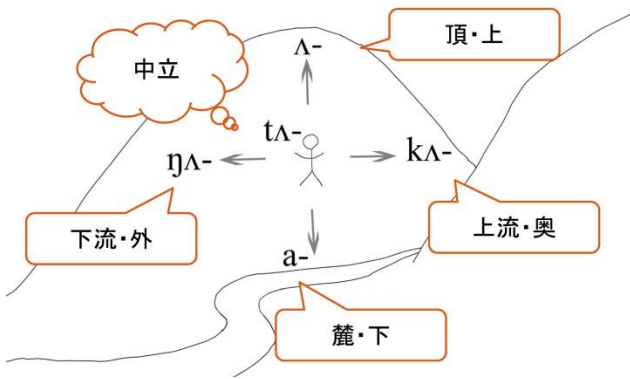
方向接辞は「接頭辞」タイプが一般的だが、A：動詞に先行する場合と、B：動詞と助動詞（あるいは動詞述部）の間、つまり述部要素に先行する場合（動詞との相対的位置からみて接尾辞）がある。

- A 西夏語 **接頭辞—動詞語幹(—助動詞)** 𐰇𐰺𐰽𐰚𐰚𐰚 <sup>2</sup>dzu' <sup>2</sup>ti:q <sup>1</sup>'a? <sup>1</sup>wor 「座る所(から上に)起きて」
- B ジンポー語 **動詞語幹—接尾辞—述部要素** sa-s-ù? 「行け(話者から離れる方向へ)」

方向接辞はこれまでTB語派の一部の言語特徴として論じられてきた(DeLancey1980, 1981, 西 1988, 西田 1989 ほか)。しかし方向接辞の実態は、個々の研究者のコンセンサスを得ているか？

1. 方向接辞の代表的な「方向」と、最小対の例文

ダバ語の方向接辞と方向



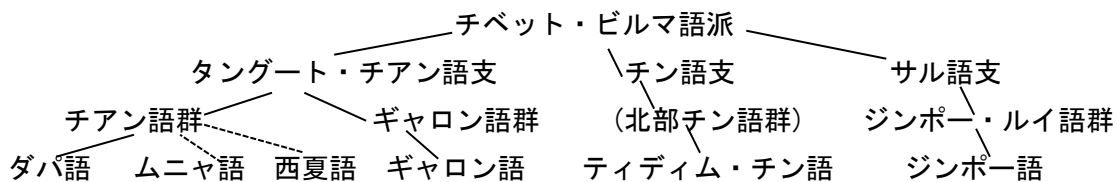
ギャロン語の例

wuyojis [to]thančh {to}thal-nčh}  
 3dl DIR-行く -3SL  
 彼ら二人は(山に)登った

wuyojis [no]thančh {no}thal-nčh}  
 3dl DIR-行く -3SL  
 彼ら二人は降りた

2. 扱う言語の系統と地域

WSで扱われる言語のおおよその系統



## 諸言語の地理的な関係



## 方向接辞の種類

西夏	6~7
ギャロン	7~9
ダバ	5
ムニャ	8
ジンポー	2
ティディム・チン	2~3

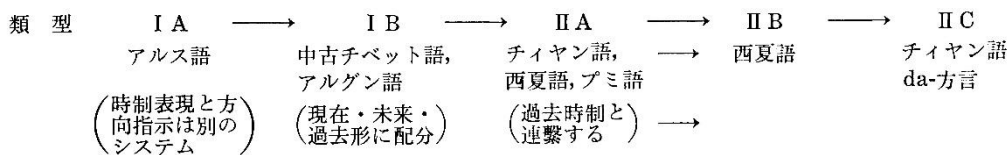


言語地理的には一見、「複雑な北部と簡単な南部」のように見えるが実際は？

### 3. 通時的発展仮説

TB 語派における「方向接辞」の類型化は妥当か？そして通時的発展仮説は妥当か？

#### 西田 1989 による「方向指示接頭辞の発展仮説」



**類型 I** : 方向指示の接頭辞が、過去時、非過去時、双方に使われるタイプ

**類型 II** : 過去時にのみ使われるタイプ

**類型 A** : 同じ一つの動詞語幹に多種の接頭辞が使われるタイプ

**類型 B** : 特定の動詞語幹には特定の動詞語幹が使われ、接頭辞は複数あるがその機能は一つのタイプ

**類型 C** : 接頭辞の形式も単一で、機能も単一のタイプ

上記は西田 1989: 807 より

西田説では「西夏語は IIA 型から IIB 型に移行しつつあった」。他の言語ではこのタイプの適用の可否や、発展仮説を裏付けることはできるか？

#### <参考文献>

DeLancey, Scott 1980 *Deictic categories in the Tibeto-Burman verb*. Ph.D. diss, Indiana University

DeLancey, Scott 1981 "The category of direction in Tibeto-Burman." *Linguistics of the Tibeto-Burman Area* 6.1: 83-101

西義郎 1988 「中国国内のチベット・ビルマ語系の言語にみられる方向指示の動詞接辞」『チベット・ビルマ諸語の言語類型学的研究』(昭和 59 年度科研費総合研究 A 研究成果報告書) : 26-45

西田龍雄 1989 「チベット・ビルマ語派」『言語学大辞典』中巻(亀井孝他編), 三省堂: 791-822

※本ワークショップは科研費(基盤 B 課題番号 25580087)の研究成果の一部である。